# おかなみ

写真：俳聖殿

OKANAMI
vol.69
2024/1

## 新年のご挨拶　理事長・院長　猪木　達

麻酔と周術期管理

ごぞんじですか？老健「老健3施設の管理栄養士の取り組みをご紹介」

医療DXへの取組み

(財)日本医療機能評価機構認定病院　社会医療法人 畿内会 岡波総合病院

# 新年のご挨拶

理事長・院長　猪木　達

新年あけましておめでとうございます。

新病院に移転開院し、１年が経ちました。コロナ感染拡大第９波のなかでの患者様移送、その後、コロナの５類移行もあり、さまざまな環境調整を行いながら、この１年があわただしく過ぎていきました。

さて、新年が始まりました。2024年はこれからの地域医療・介護を考える上で重要な意味をもつ年です。2年に1度の診療報酬、3年に1度の介護報酬・障害福祉サービス等報酬が同時に改定されるトリプル改定の年です。さらに医療法に基づく第8期医療計画のスタートや医師の働き方改革も行われる年にもあたります。

トリプル改定にあたり喫緊の課題となっているのが2025年問題と2040年問題です。2025年度には『団塊の世代』がすべて75歳以上の後期高齢者となり、医療・介護のニーズが急速に増加していきます。2025年から2040年にかけては15～64歳の生産年齢人口が急激に減少し2040年には『団塊ジュニア世代』が65歳以上となります。つまり、医療・介護保険の財政が厳しくなるだけでなく、医療・介護の支え手の人材確保がより一層難しくなることが予想されるのです。

このような背景の中で、先ずわれわれ医療・介護側に求められるのはますますの「効率化」です。限られた医療・介護資源を関係機関が協力し合い、いかに効率的に提供できるかが今後の重要なカギとなります。当法人のサービスも地域との役割分担、機能分化を通じて、さらなる効率的な連携を進めていかねばなりません。コロナ禍で後退した顔と顔のみえる連携についても再度推進し、地域の中での関係づくりを強化してまいります。

また同時に重要となってくるのは、患者様、住民の皆様の御理解と覚悟だと思います。間近に迫った厳しい時代に地域医療・介護をどのように維持していくことができるか、皆様と共に考え、理解を深める必要があると思います。

現在、患者様・利用者様側からの期待と医療・介護側の現実とのギャップがもたらす衝突やトラブルは、残念ながら後を絶ちません。そのギャップの解消に日々努力していますが、病院や介護施設側が抱える解決しがたい課題や限界がそこにあるのも事実です。皆様にそのことを御理解いただき、これからの医療・介護との関わり方を考えていただかなければ、この先の医療・介護は成り立ちません。法人としましても、より充実した情報発信を進め、住民ひとり一人が理解を深めていただけるように努力を続けてまいります。

2024年は、これからの持続可能な地域医療・介護についてみんなが考え、行動に移していく年です。「効率化」は大事ですが、「効率化」だけでは限界を迎えます。伊賀地域の医療・介護の崩壊を招かないために、当法人の職員も一丸となって、この地域の安心で継続的な医療・介護を支えていく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

## ● 岡波総合病院の理念 ●

**人々の健康と幸せのために、『人間としての愛』の精神をもって心からの医療と福祉を提供していきます。**

### ● 岡波総合病院の基本方針 ●

1．私達は、「至誠・注意・満足」の院是の基に、患者様と信頼を共有できるように心の通じた医療サービスを実践いたします。
1．私達は、医療水準の日々向上をめざし、高度適正な医療を実践いたします。
1．私達は、患者様に心温まる細心の看護と介護の提供を実践いたします。
1．私達は、地域の医療福祉機関との連携を密接にとり、患者様すべてに公正な医療の提供とプライバシー保護を実践いたします。

### ● 患者様の権利 ●

1．患者様は、だれでも良質な医療を公平に受けることができます。
1．患者様は、病気・検査・治療などについて理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報をうけることができます。
1．患者様は、十分な説明と情報提供を基に治療方法などを自らの意思で選択することができます。また別の医師の意見を求めることもできます。
1．患者様は、自分の診療記録の開示を所定の手続きを経て求めることができます。
1．患者様は、個人の情報やプライバシーについて保護されます。
1．患者様は、健全で良質な医療水準を確保するため医療サービスについて提言することができます。

# 麻酔と周術期管理

周術期管理センター長　中尾　慎一

手術は患者さんにとって、肉体的だけでなく精神的にも大きな苦痛だと思います。が、ご安心ください。最近はほとんど苦痛もなく安全に手術を受けることができるようになりました。手術が安全で快適にできるようになったのは戦後、特にここ30年間の麻酔管理の進歩が関わっています。

古来、手術中の痛みや意識をとるためにアヘンなど様々な薬物が使われてきましたが、多くは不十分であるだけでなく薬物そのものの害で患者さんの多くは亡くなっていました。1804年、チョウセンアサガオ（日本麻酔科学会のロゴマークになっています）を主成分とする薬物を用いて全身麻酔下での約150例の乳房手術に成功し、それを世界で初めて記述に残したのは日本の華岡青洲です。彼は有吉佐和子の小説「華岡青洲の妻」のモデルになっていて、世界で最も有名な日本の医者の一人です。写真は、私が米国シカゴの国際外科学会歴史博物館に行った時に華岡青洲コーナーで撮ったものです。とはいうものの、脳、肺、心臓や肝臓・すい臓など大きな手術でも安全にできるようになったのは、近代麻酔の発達した極最近のことです。

手術は悪い所を取ったり再建したりしますが、やはりそれ自体で体に大きな負担がかかります。また最近では御高齢の患者さんも増え様々な疾患を持っている方も多く、手術の危険性が増します。そこで生まれてきたのが、手術前・中・後を通して管理するという周術期管理の概念です。すなわち、麻酔科医は手術前に患者さんの全身状態（高血圧や糖尿病などの疾患や心臓や肺など重要臓器の状態）を十分に把握し、患者さんに最も適した安全な麻酔方法を選択します。手術中は患者さんに常時寄り添い、麻酔をかける（全身麻酔では完全に意識を取る）だけでなく、循環系（血圧や心電図など）・呼吸器系、そして神経系のモニターを行い、不測の事態が生じた時には適切に対処します。手術後は痛みの軽減を図るとともに、意識や循環、呼吸などの状態が安定していることを確かめます。さらに、患者さんが元々重篤な疾患を有していたり大きな手術の後は、主治医とともに管理をさせていただく場合もあります。岡波総合病院では新病院にHCU（high care unit: 高度治療室）を創設し、重症患者さんの集学的治療（主治医だけでなく専門分野が異なる複数の医師やコメディカルの方達も参加してより良い治療を行う）が可能になりました。私は麻酔科医ですが、HCUよりさらに重症患者の管理治療を行うICU（intensive care unit: 集中治療）にも長く携わってきました。集中治療の概念はかなり昔からありますが、今回の新型コロナ騒動で有名になったように近年さらに注目されている部門です。

麻酔科医は患者さんと直接接する機会は少ないのですが、患者さんに安心安全をお届けするために日々手術室で努力していますし、重症患者の治療にも関わっています。

## 新任医師紹介

### 加島江美子（かしまえみこ） 医師　令和5年10月1日　採用

内科（血液内科）
日本内科学会認定内科専門医、日本血液学会認定血液専門医

はじめまして。2023年10月よりお世話になっております加島と申します。専門は血液疾患です。伊賀、名張地区の医療に貢献できるように精進してまいります。よろしくお願いいたします。

### 福浦竜樹（ふくうらたつき） 医師　令和6年1月1日　採用

外科

### 中山俊介（なかやましゅんすけ） 医師　令和6年1月1日　採用

整形外科

## 退職　令和6年1月1日　江川琢也医師（整形外科）

報告

# 発生現場での救急処置を競う大会で 岡波病院、伊賀消防隊チームが準優勝しました！

副院長　研修管理委員長　**家村　順三**

さる2023年10月7日（土）に、三重県消防学校において、三重県救急救命標準化教育統合コース（略称MIELS）という、実際の救急現場を想定した大会がありました。三重県全域から14チームが出場し、それぞれの技量を競ったのでした。当院からは研修医2名、中堅看護師2名に伊賀消防署救急救命士2名が加わり、チームを結成して大会に臨みました。

当地域は現場から病院までの患者さんの搬送距離が長く、現場での初期対応が生死を分けることもあります。チームの面々は、交通事故や高所転落、（糖尿病性）昏睡、急性心筋梗塞、脳卒中など、遭遇することの多い状況に対応すべく、真剣に真摯な態度で座学と実地練習を行っていました。新しく広くなった病院講堂には、救急医療に携わる看護師さんや非番の伊賀消防署の方たちが多数詰めかけてくれて、患者やその家族、現場の周りの人達の役を引き受けてくれたおかげで、10数回に及ぶ病院での練習も大いに盛り上がったのでした。その惜しみない努力が準優勝という望外の結果につながったのですが、今後はこの経験が実際の医療現場に活かされて、多くの命が救われることが期待されてやみません。

表彰状

第２席

ER伊賀 殿

おしらせ

## ごぞんじですか？老健
# 老健３施設の管理栄養士の取り組みをご紹介

地産地消・手作りの味をモットーに、ご利用者個々のご病状に適した安心・安全、楽しくて美味しい食事提供に日々努めています。

### ▌多職種が協働して作成する栄養ケア計画を実施

低栄養などの改善のため、栄養管理方法や食事の際に確認すべき点（摂取量、噛み具合、飲み込みの状態、食欲や満足度、嗜好など）をミール（食事時間）ラウンドを通してチェック。その結果から食事内容の吟味、食具の工夫、介助の仕方の検討などを全職種と情報共有し協力して行っています。

ミールラウンドでの食事場面観察

全職種と情報共有のカンファレンス

食事環境の整備・食具

### ▌地域や家庭との連携を密に在宅生活を支援

施設での食生活は、正しい食習慣を身につけ、より健康的な生活を送るために必要な知識を習得する良い機会です。自宅へ退所される方には、家庭の味を大切にしたメニューの紹介や身体の状態に合わせた調理方法、栄養バランスについての相談を行っています。

伊賀の米や牛肉を使った食事

食べやすいように工夫した食事

退所前の食事指導

# 連携登録医紹介

## えがおつくる矯正歯科

2019年、名張駅前にて歯並び専門の矯正歯科医院を開院し、地域及び近隣県市の皆様の歯並び相談室として矯正治療を行っています。矯正治療では、骨に埋まったまま萌えてこない大人の歯を引っ張り出して並べたり、親知らずを抜いた隙間をつかって歯をきれいに並べる場合があり、岡波総合病院歯科口腔外科の先生方と連携し多くの症例を治療させていただいております。お子様やご家族の歯並びにお悩みの皆様、素敵なえがおをつくるお手伝いをさせていただきます。

医師名　宮本久美 医師
住所　〒590-0018 名張市希央台5-162
TEL　0595-41-0178　FAX　0595-41-0178
診療科目　矯正歯科
診療時間　第1月曜、火・水・金曜　11:00～18:00
土曜　9:00～16:00
休診日　第1以外月曜、木・日曜・祝日

## 医療法人友和会　たけざわクリニック

当院は2014年に伊賀市丸の内から移転し、昨年9月で丸9年となりました。父が長年歯科医師として働かせていただいたこの場所を改装し、新たに美容医療を開始することになりました。それに伴い医院名も、「竹沢内科歯科医院」から、「たけざわクリニック」へ変更しています。この地域に今までなかった美容医療なので、10月の開始前よりお問い合わせもたくさんいただきました。皆様の期待に沿えるよう、お肌の悩みに寄り添い、より元気に過ごしていただけるようにという想いで診療いたします。今まで通り、内科外来、血液維持透析治療も行っておりますので、いつでもご相談ください。

医師名　竹澤有美子 医師
住所　〒518-0825 伊賀市小田町749-1
TEL　0595-23-5553　FAX　0595-23-3668
診療科目　内科、腎臓内科、人工透析、美容医療
診療時間　平日※　9:30～12:30、16:00～19:00
※火曜午後のみ以下の時間
腎臓外来　15:00～18:00
美　　容　10:00～13:00、15:00～18:00
休診日　水曜午後・木曜・日曜・祝日

## 清水眼科

当院は1970年に私の父が上野農人町で開院し、2001年より現在の上野寺町に移転しております。眼科一般診療、コンタクトレンズ診療、日帰り白内障手術を行っており、当院で対応困難な場合は岡波総合病院眼科の先生方にお願いしています。今後も微力ながら伊賀地域の眼科医療に取り組んでいく所存です。

医師名　清水一之 医師
住所　〒518-0851 伊賀市上野寺町1165番地の3
TEL　0595-23-0718　FAX　0595-23-3238
診療科目　眼科
診療時間　月・水・金曜
9:00～12:00、15:00～18:00
火曜　手術日
木・土曜　9:00～12:00
休診日　日曜・祝日

## 総合医療クリニック桔梗

当院は、消化器内科・循環器内科・一般内科・内視鏡検査（胃カメラ・大腸カメラ）など総合的な医療サービスを提供しております。当院の内視鏡検査は鎮痛剤を使った検査を行っており、初めての方や恐怖心がある方も眠っている間に苦痛なく検査を受けていただけます。一般内科診療については生活習慣病（高血圧、糖尿病、脂質異常症等）をはじめ内科全般に渡る幅広い診療に努めております。今まで培ってきた経験と最新鋭の医療機器による確かな検査・診断を心掛け地域の皆様に安心・信頼されるクリニックを目指していきたいと思っております。

医師名　加茂和敏 医師
住所　〒518-0635 名張市桔梗が丘5番町9街区1812-1
TEL　0595-66-1190　FAX　0595-66-1191
診療科目　消化器内科・循環器内科・内科
診療時間　8:30～11:30、17:00～20:00
休診日　日・祝日・水曜日（第1・第3・第5）

# 医療DXへの取組み

看護部長　松島　由実

当院では、より良質で効率的な医療を提供するために、目指して医療DX※に取り組んでいます。その一つとして、病院移転を機に、電子カルテ・ナースコール・バイタル機器・スマートフォン・離床センサーなどの情報を一元管理するスマートベッドシステムを導入しました。これにより、ベッドサイドにおけるバイタルの自動入力や、患者情報の閲覧が可能になり、業務効率をアップする一手段です。また、離床センサーをステーション端末でモニタリングしたり、スマートフォンで通知を受け取ることによって、転倒転落の防止にもつなげていきたいと思います。

医療DXを実現することにより、さらなる高齢化社会や人員不足（人口減少）などに対応し、医療や看護の質を維持していくことを目指します。

※医療DX（Digital Transformation）とは、保健・医療・介護のプロセス（診察、治療、薬剤処方、医療・介護連携など）において、発生する情報やデータを最適なシステムを通して、業務の効率化や保存データの標準化・外部化を図り、良質な医療やケアを提供するもので、患者さんにも職員にも優しい仕組みです。

### ①ベッドの状態を一覧表示

患者さんのバイタルサインや、ベッドの背あげ角度や高さ、そして離床センサーなどの機器情報をスタッフステーション端末に一覧で表示することにより病棟全体のベッド状況を観察します。

ステーション端末

### ②ピクトグラム・患者情報の表示

患者情報やピクトグラム（概要や意味を表す記号）をベッドサイド端末に表示することで、患者さんの状態を関係者の間で共有します。

### ③バイタルサインの入力

通信機能付バイタルサイン測定機器を利用することで入力業務の負担を低減、ベッドサイドでバイタルサインを入力することにより転記ミスを防止します。

# おかなみ出前講座

お申し込み、お問い合わせは、岡波総合病院地域医療連携室（直通電話0595-21-3154）まで。

| 令和5年9月14日 | 令和5年9月15日 | 令和5年9月21日 | 令和5年9月26日 |
|---|---|---|---|
| まちづくり協議会<br>福祉部会様 | 神戸地区支え合い<br>ネットワーク協議会様 | 島ケ原町区楽楽会様 | 山出老人クラブ蕉郷会<br>ほほえみ教室様 |
| | | | |
| テーマ<br>自宅でできる腰・膝の体操 | テーマ<br>がんになりにくい<br>日常生活って何？ | テーマ<br>ほんとは怖い高血圧 | テーマ<br>少しでも若々しく<br>脳の機能を保つために |
| 講師<br>理学療法士<br>松石康平　稲本光佑 | 講師<br>がん看護専門看護師<br>中滉子 | 講師<br>慢性心不全看護認定看護師<br>林愛希仁 | 講師<br>脳卒中リハビリテーション看護認定看護師<br>東雲洋美 |

## 厚生労働大臣表彰を受賞しました

厚生労働省において令和5年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰の授与式が執り行われ、当院が全国から選出された13医療機関のひとつとして表彰されました。

本表彰は、厚生労働大臣が、都道府県知事の推薦のもと、長年にわたり地域の救急医療の確保や救急医療対策の推進に貢献した個人や団体、医療機関の功績を称えるものです。

今回の表彰を励みとして、今後も地域の救急医療へ貢献してまいります。

## 放射線科寺内副院長が優秀賞を受賞

第59回日本医学放射線学会秋季臨床大会「イメージ・インタープリテーション・セッション※」において当院副院長　放射線科部長　寺内一真医師が優秀賞を受賞しました。

※「イメージ・インタープリテーション・セッション」とは、読影が難しい画像に対して全国の放射線画像診断医が解答を競い合うセッションです。

## 4Fテラスで夕涼み会を開催しました

4東病棟（回復期リハビリテーション病棟）
看護師長補佐　工藤由香子

回復期リハビリテーション病棟は、入院生活のひとつひとつの動作をリハビリの一環ととらえ、ご自身で行えることは見守り、必要に応じ援助を行っています。当病棟では入院生活の中で、リラックス効果や意欲の向上を図る目的で定期的にイベントを行っています。10月は「夕涼み会」と称し、テラスでミニ演奏会を行いました。多くの患者さんが鑑賞され、感涙される方もいらっしゃいました。新病院になって、テラスでのイベントは初めての試みでしたがいい機会となり、こうしたイベントを継続してリハビリや闘病の励みになればと思います。

## リカバリー（回復する力）について学びました

看護部自治会会長　佐小真生

看護部自治会では、10月23日にリカバリーマスタートレーナーの伊藤晃一先生をお招きして、「いつまでもアクティブな体を作るためのセルフケア」をテーマにした講演会を開催しました。看護師は体を使う仕事であり、無理な体勢をとることで腰を痛めてしまうこともしばしばあります。伊藤先生は、人間が本来持つリカバリー“回復する力”に着目し、痛みのない体づくりを考案し、パーソナルトレーニングを指導されています。講演では、ボールを使用して実際に体をほぐす実技や、体のメンテナンス方法について教えていただきました。日々のセルフケアでいつまでも元気な体を作り、患者さんにも元気を与えていきたいと思います。